

科目区分	専門分野 I	科目名	共通基本技術 II (対象の把握)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	田所 正春 (臨床経験8年、教育経験10年)				
科目目標	看護に必要な基本技術の概念を理解し、対象を把握する基本技術を習得する。				
授業概要	<p>第1回 <b>コミュニケーションについて</b> 看護におけるコミュニケーションの意義と目的を学習し、理解する。</p> <p>第2回 <b>ヘルスアセスメントについて</b> ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要な技術を学習する。</p> <p>第3回 <b>バイタルサインの基礎知識</b> バイタルサインの意義を理解した上で、測定目的や影響因子を学習する。</p> <p>第4回 <b>バイタルサインの測定方法</b> 体温、脈拍、呼吸数、血圧の測定方法を学習する。</p> <p>第5回 <b>バイタルサイン測定の実際1</b> (演習) 体温、脈拍数、呼吸数測定の演習を行い、測定技術を習得する。</p> <p>第6回 <b>バイタルサイン測定の実際2</b> (演習) 血圧測定の演習を行い、測定技術を習得する。</p> <p>第7回 <b>ヘルスアセスメントに必要な技術(呼吸器系)</b> 正常な呼吸音と異常な呼吸音について解剖学の知識を復習しながら学習する。</p> <p>第8回 <b>バイタルサイン測定の実際3</b> (演習) 演習をとおして正常な呼吸音を聴診する。異常な呼吸音はシミュレーターモデルで聴診する。</p> <p>第9回 <b>ヘルスアセスメントに必要な技術(循環器系)</b> 正常心音、過剰心音、心雑音について解剖学の知識を復習しながら学習する。</p> <p>第10回 <b>バイタルサイン測定の実際4</b> (演習) 演習をとおして正常心音を聴診する。過剰心音、心雑音はシミュレーターモデルで聴診する。</p> <p>第11回 <b>看護における観察、記録、報告について</b> 観察、記録、報告について意義と原則を学習し理解する。</p> <p>第12回 <b>バイタルサイン測定の実際5</b> (演習) 体温、脈拍数、呼吸数、血圧の測定並びに呼吸音、心音聴診の演習を行い、技術を習得する。</p> <p>第13回 <b>ヘルスアセスメントに必要な技術(脳神経系、消化器系)</b> 感覚機能障害、腸蠕動音の観察方法について、解剖学の知識を復習しながら学習する。</p> <p>第14回 <b>バイタルサイン測定の実際6</b> (演習) 演習をとおして正常な腸蠕動音を聴診する。適宜シミュレーターモデルを活用する。</p> <p>第15回 <b>まとめ:1H</b> 講義内容のまとめと復習を行う。 終了試験:1H</p>				
看護師国家試験出題基準	コミュニケーション、フィジカルアセスメント、体温、脈拍、血圧、呼吸数、呼吸音、心音、腸蠕動音、副雑音、過剰心音、心雑音、マックバーニーの圧痛点、経皮的酸素濃度測定、パルスオキシメーター、意識レベル、腹囲測定、観察、記録、報告、フローシート、プロセスレコード、問診、視診、聴診、打診、触診				
授業の進め方	解剖学の知識を想起しながら学習する。 演習ではシミュレーターモデル、デモンストレーションやDVDの視聴によりイメージ化を図る。				
履修のポイント・留意事項	自己学習の時間を活用して演習し、技術の習得に努める。解剖学の知識を理解した上で、授業に臨む。				
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 2. 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 3. フィジカルアセスメントガイドブック				
評価方法・配点	終了試験(80%) 実技試験:バイタルサイン(20%)				